

報 告

CASPワークショップ参加記

天野 いづみ

2001年12月16日（日）、名古屋大学病院において CASP Japan ワークショップが開かれました。CASP とは “Critical Appraisal Skills Programme” の略で、英国で市民のための健康支援活動の一部として始まりました。医療や保健の現場で判断をする職種に就いている人だけでなく、その判断に関わるすべての人が、その根拠をわきまえた上で判断し行動できるように支援することを目的としています。その根拠を探す手法が CASP であり、この活動を世界に広げることが目的に、CASP international が設立されました。日本では、名古屋大学の福岡敏雄先生が CASP Japan のコーディネーターをされており、各地でワークショップが開かれています。

当日の参加者は、名古屋大学の薬剤師や学生、近郊病院の医師、薬剤師、そして私達、病院図書館員を含む25名程で、小グループ学習形式のワークショップを体験しました。

EBM 自体、明確に理解できていない上、初めて聞く CASP という言葉、テキスト論文も難しそうだ、緊張し気後れしながら参加したのですが、既にトレーニングを受けられた薬剤師のチューターの方々の指導と、落研出身(?)の福岡先生の話術で、楽しく勉強できました。

CASP の具体的な作業としてはまず、題材として与えられた臨床試験論文の内容を吟味する



あまの いづみ：静岡赤十字病院

ために、次の3つのポイントを明らかにします。

- A / その結果は信頼できるか
- B / 結果は何か
- C / その結果はあなたの役に立つか

論文を読み、用意された「臨床試験を見極めるための11のチェックポイント(図1)」に従って答えを順に探していくことで、この3つのポイントが明らかになります。

論文を吟味するためのこの手法は、図書室の担当者としてぜひ身につけておきたい知識であり、必要なことだと思いますが、現在の図書の業務や位置づけの中で、どう活用したら良いか? なかなか現実と結びつかないだけに、難しく感じられました。しかし、図書室から CASP ワークショップが広まれば、司書は新しい役割を担い、また生き残るための一つの手段になるかとも思いました。機会がありましたらぜひ参加されることをお勧めします。

参考) <http://casppj.umin.ac.jp/>

A/この試験の結果は信頼できるか			
スクリーニングのための質問			
1 その試験は、焦点が明確な課題設定がなされたか? <small>課題は以下の内容で焦点が絞られる ・研究対象患者 ・行われた介入 ・検討された結果</small>	はい <input type="checkbox"/>	不明 <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>
2 その試験は課題に答えるために適切な方法であったか? <small>臨床試験 (trial, RCT) は、ある「仮説」を検定するためにデザインされたものである。試験は、原因を明らかにしたり、新しい仮説を作り出したり、個々の結果を記述したりするのには、あまり適切でない。 適切な方法とは、その結果を推定するものか? 適切な結果デザインであったか?</small>	はい <input type="checkbox"/>	不明 <input type="checkbox"/>	いいえ <input type="checkbox"/>
続ける価値はあるか?			

図1。「臨床試験を見極める12のチェックポイント Ver.2.0」の最初の2項目^{注1)}

注1) ワークショップ時は、Ver.1.2で「臨床試験を見極めるための11のチェックポイント」であったが、2002. 2. 5現在、Ver.2.0「…12のチェックポイント」にバージョンアップされている。